

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.3.25 No.224 連絡先 FAX 042-555-1911



米軍三沢基地のF-16が「IS」（「イスラム国」）空爆作戦に参加していた



米国主導でイラクとシリアで進む過激武装組織「IS」への空爆作戦に、米軍三沢基地に配備されている F-16 戦闘機部隊が参加していたことが新聞「赤旗」日曜版の編集部の取材で分かりました。部隊は米空軍第 13 戦闘飛行中隊です。

三沢基地によると、同戦闘飛行中隊は、昨年 5 月から同 10 月まで、中東に派遣されていました。中東を責任地域とする米中央空軍（米サウスカロライナ州 ショー空軍基地）は編集部の取材に「第 13 戦闘飛行中隊はイラクとシリアのいずれの空爆にも参加した」と回答。外務省の日米安全保障条約課は、三沢基地の F-16 部隊の空爆作戦参加について「承知していないので、コメントしようがない」と回答。在日米軍司令部（米軍横田基地）は、「私たちはこの種の部隊展開を日本政府に通報する必要はない」と答えたそうです。在日米軍は、日本政府や日本国民に知らせず、勝手に IS 空爆に参加したのです。安保条約は米軍の駐留目的を「極東における国際の平和及び安全の維持に寄与するため」と定めています。中東は極東ではなく、IS 空爆は安保条約さえ逸脱するもので、暴力連鎖に加担するものです。

F-16 戦闘機は、3 月にはいって延べ 11 機が横田基地に飛来しています。（上写真）

横田基地のパラシュート訓練、「日米合意事項ない」と答弁 福生市議会



福生市議会 3 月定例会で、奥富喜一議員（共産党）が、横田基地で 3 年間で 1500 人の人員降下訓練が行われたパラシュート訓練について一般質問。「伊江島補助飛行場は、日米合意されてパラシュート訓練が行われているが、横田基地での合意事項は存在するのか」との質問に、市当局は「北関東防衛局に問い合わせた、合意事項はない」と答弁しました。

都知事「日米安全保障体制は不可欠、横田基地はその一翼を担うもの」



都議会予算特別委員会（3 月 16 日）で、日本共産党の清水ひで子議員は総括質疑に立ちました。米軍横田基地については「人口密集地域にあり、国内法では存在を許されない」と指摘し、撤去とともに、危険なパラシュート降下訓練の中止を強力に求めるよう知事に要求しました。

梶添知事は、「日米安全保障体制は不可欠であり、横田基地はその一翼を担うもの」と述べ「地元住民に与える影響を最小限にとどめるよう努めるべきだ」と答えたそうです。東京都は、横田基地は「整理、縮小、返還」を目指しているのではないですか。梶添知事は横田基地を容認する立場なのですか。在日米軍基地は日本を守るところか、日本を戦争に巻き込んでいます。（写真：米軍横田基地 HP）

主権侵害の在日米軍基地の看板が撤去開始 横田基地は？ (No. 224 の裏面)

米側が看板の撤去を開始したのは、米軍経ヶ岬（きょうがみさき）通信所（京都府京丹後市）のフェンスに設置されている「立ち入り禁止」の警告看板。この看板は、立ち入り禁止の根拠として、国内法である刑事特別法に加え、1950年に制定された米国法である国内治安維持法を英文で明記しています。指摘した日本共産党の井上哲士、倉林明子の両参院議員に外務省も「あたかも米国の法律によって立ち入りが禁止されていると誤解を与える内容だ。不適切な面がある」とし、米側に申し入れたそうです。過去にも普天間基地（2012年）や埼玉県の大和田通信基地（1983年）に掲示され、「主権侵害だ」「違法な掲示」と国会で問題にされ撤去されました。



左は米軍横田基地の看板です。「警告 在日米軍基地 基地司令官の許可なく、此の区域に立ち入ることは、法律違反である。当施設にいる間は、すべての人は身体及び所持品の捜索を受けるかも知れない。不法な立ち入りは、日本国法律によって罰せられる。（刑事特別法第2条、昭和27年5月7日、法律第138号）当施設は軍用犬により巡回されている。」と書かれています。

昭和27年（1952年）4月28日は、サンフランシスコ講和条約とともに、「日本全土における米軍基地の自由使用を認める」旧安保条約が発効された日です。日本は、未だ植民地状態です。

米軍最新鋭F35伊江島訓練 外務省「地元へ説明する立場にない」

沖縄タイムス（3月18日）によると、米軍が伊江島補助飛行場で計画する最新鋭F35ステルス戦闘機の着艦訓練へ向け、4月にも補助飛行場内のヘリ発着帯などの改修に着手することについて、照会した赤嶺政賢衆院議員（共産）に、外務省は改修費などが盛り込まれた米国の2015会計年度予算の成立を認めた上で、「米軍の予算や計画を外務省からは（地元へ）説明できない」としたそうです。赤嶺氏は「いくら米国の予算で、既存基地内とはいえ、これでは基地機能の強化に歯止めがかからない」と懸念を示しました。計画は、17年に配備予定のF35の訓練を伊江島補助飛行場などで実施するため、ジェット機の爆風などに備え発着帯などを改修する内容です。島袋秀幸伊江村長は11日、「情報がない中で訓練され、負担が増えるなら反対せざるを得ない」と反発しています。F35のエンジン工場が隣接する横田基地、人ごとではありません。

阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）さんのふるさと伊江島 今・昔（上）



沖縄の名護市中心部からバスで30分、フェリーで30分の伊江島。平和のメッセンジャー阿波根さんの故郷です。

1945年4月、伊江島には日本軍の飛行場があったため、島中が激戦地になり、島民の3分の1が殺され、島中の家もすべて破壊されました。1955年3月、戦争が終わって10年後、完全武装の米兵300名が伊江島に上陸。米軍は爆撃演習予定地を銃剣とブルトナーで破壊し火を放ち、農家と広大な畑を強奪して、即座に爆撃演習場の建設を始めました。米軍は、伊江島の全面積の3分の2を基地建設予定地として接收しました。（写真は1955年から1960年ころの伊江島。写真は「命こそ宝」2003カレンダーより。了解を得て掲載）。